

INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー

令和6年9月

NO.1



株式会社 みっちゃん工房

経営概要

代表者：代表取締役社長 光永 カオリ氏
所在地：熊本県上益城郡益城町
従業員：役員1名、職員18名（正社員13名、パート：5名）、うち外国人材6名（特定技能：6名、うち男性1名）
※令和6年9月現在
栽培品目：ベビーリーフ3ha（ハウス66棟）
周年8サイクル（播種・栽培・収穫・土壌消毒）
自社工場で加工し、販売



平成16年、社長の父の光永幸弘氏が「女性でも栽培が容易な作物」との発想から、ベビーリーフの生産を開始。同年、次女のカオリ氏が父親の誘いで民間企業を退職して就農。平成21年に経営を継承し、平成27年に「株式会社みっちゃん工房」を設立し、法人化。代表取締役社長となる。性別や国籍などを隔てず、働く人すべてが幸せになる職場づくりを目指している。令和5年度「全国優良経営体表彰」の「働き方改革部門」で農林水産大臣賞を受賞。現在は3姉妹で経営。

外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

平成28年から受入れを開始しました。受入れの5年程前（平成23年頃）まではパートの求人募集をすると即応募がありましたが、その2年後位（平成25年頃）からは募集しても応募がなくなりました。そこで、ベトナムの管理団体と親しかった当時の担当税理士に技能実習生の受入れを勧められました。当初は外国人材の受入れに躊躇しましたが、「雇用すれば、必ず会社のためになりますよ。」との税理士の言葉を頼みに、早速、ベトナムに赴き、現地で面接を行いました。そして、1期生として3名の技能実習生を受け入れることにしました。現在は、2期生と3期生の技能実習生を特定技能の人材として、継続して雇用しています。

➤ 外国人材の業務内容や受入れの効果はどうか。

現在、特定技能の資格を持つ6名が圃場と工場での加工作業に従事しています。「一生懸命働いて、お給料をもらう。」という仕事への取組姿勢が、どこかしら「昭和」の日本人の気質を思い起こさせてくれます。みんな努力家で、お互いに成長できることを大変嬉しく思っています。

加工場のリーダーはベトナム人のアインさんです。平成30年に19歳で来日し、現在雇用7年目です。工場の責任者として、品質管理や作業全体の流れの管理、作業人員のシフトの管理などを任せています。また、会社に隣接の外国人寮ではまとめ役で私達との橋渡しの役割も担ってくれています。娘のような存在でとても可愛らしく、頼りにもしています。



光永社長と工場リーダーのアインさん

受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

外国人の教育などの取組を教えてください。

採用当初から、希望者へ週1回、勤務終了後、日本語学習の場を設けてきたところ、電話応対や商品の受発注ができる程の日本語能力を身につけ、現在は日本語能力試験のレベル「N2(※)」に合格した者が2名います。従業員からは、「日本語に対する理解が深まり、日々の生活や仕事をしやすくなりました。」などの声があり、スキルアップは昇給にもつなげています。また、自動車の運転免許を取得する際には当社で費用を負担し、支援しています。外国人従業員6名のうち4名が免許を取得しており、仕事以外でも、当社から車を貸し出すことで休日にドライブなどを楽しんでもらっています。

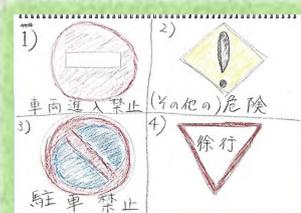
※「N2」は、新聞記事やニュース等の内容を理解し、要旨を把握できるレベル。



圃場でトラクターを運転して作業



加工場での様子



交通標識の手作り教材

生活に関する支援などの取組を教えてください。

10代、20代という人生で大切な若い時期を日本で過ごしていることから、農業を学び働くばかりではなく、日本を好きになってもらいたい、また、日本文化への理解を深めて欲しいと、願っています。この思いから、毎年、入社3年目まで、研修旅行に参加してもらっています。東京など、普段はなかなか訪れる機会のない場所へ旅行できることを心待ちにしており、沖縄旅行では、自分達でレンタカーを運転して、海沿いのドライブを楽しんでいました。

また、成人の日には、私達の着物のお下がりなどを纏い、式に参加する機会をつくるなど、日本の伝統文化なども体験してもらっています。



東京への研修旅行



成人式に参加



ベトナム人の従業員ご夫妻

今後の事業展開

今後の展開や取組について教えてください。

今後の外国人材の活用策として、工場リーダーには異業種の合同研修会などに参加してもらい、責任者としてのマネジメント能力等を向上させ、さらに活躍してもらいたいと考えています。また、電話応対や受発注等の事務を担っている別の外国人材にはパソコンの実務技能等(ワードやエクセルの操作等)を習得してもらい、事務分野での活躍を期待しています。

将来は有能な後継者を見出し、承継していく予定です。

九州農政局



中央：光永社長(次女)
左：遠山管理栄養士(長女)
右：富田生産監理部長(三女)